

# 大湾区情報 No. 59

グレーターベイエリア情報 発行：2023年5月23日



## 【今号のトピックス】

以下のリンクをクリックすると各記事のトップに移動します。

[【大湾区における金融の加速化 デジタルイノベーションが国際的な会計人材の潜在的市場を促進】](#)

[【クロスボーダー水路交通網が広州市まで延伸 琶洲香港マカオフェリーターミナル正式稼働】](#)

[【深圳と香港が相互補完 大湾区の強みを生かす】](#)

**【大湾区における金融の加速化 デジタルイノベーションが国際的な会計人材の潜在的市場を促進】**



広東・香港・マカオの各統計局が発表した最新の2022年経済指標データによると、大湾区のGRP（地域総生産）は1兆8,900億米ドルを超え、同年の中国GDPの10.51%を占めました。

---

中国工商銀行（アジア）次期董事長の劉亜干氏は、AICPA & CIMA\*国際公認会計士協会主催の「2023 CGMA\*\*大湾区会計財務グローバル人材サミット」において、大湾区は長江デルタ、京津冀（北京・天津・河北都市部）、成渝（成都・重慶都市部）とは異なり、資本市場の相互接続、金融インフラの接続性、クロスボーダーの分野で順調に進展しており、ますます完成度をあげていると述べました。

\*AICPA : The American Institute of CPAs(米国公認会計士協会)

CIMA: The Chartered Institute of Management Accountants (英国勅許管理会計士協会)

\*\* CGMA : Chartered Global Management Accountant (2012年に開設された国際管理会計資格)

また、大湾区発展の陰には、この地域の発展を支えるためにどのような人材が必要なのかという問題が存在している、と劉氏は述べました。デジタル経済の活況は、国際金融ハブの育成に貢献しているが、同時に、国際金融ハブとしてのイノベーション構築のために、より高い要求を突きつけていると、と劉氏は続けており、このような背景から、商業銀行のデジタル・トランスフォーメーションは、大湾区におけるデジタル経済の発展と国際金融ハブの育成において、重要な要素となってきています。

「デジタル経済の発展は、商業銀行とその人材にとって極めて重要であり、また、現在デジタル経済の発展が直面する最も重要な問題は、人材の不足であります」と劉氏が付け加えました。

FCMA\*\*\*、CGMA、AICPA & CIMA 国際公認会計士協会（以下「協会」）北アジア地域総裁の李穎氏によると、大湾区はオープンで革新的、かつ国際ネットワークが発達しており、今後の発展には大きな可能性が潜めています。しかし、世界の他の地域と比較すると、高度教育を受けている人材の割合や、李氏が国際化の指標の一つとして挙げている、常住人口に占める国際人材の割合が大湾区では目立って低くなっています。

\*\*\*FCMA : Fellow Certified Management Accountant (国際公認管理会計士協会特別会員)

---

大湾区の常住人口に占める国際人材の割合は約 3.3%で、先進国における同割合の 10%を大きく下回っています。現状では、若干国際人材の割合が高い香港を除き、大湾区の他都市は平均 1%未満であり、国際人材に対する需要は非常に高くなっています。また、中国と英国の「国際人材交流および職業教育訓練における協力に関する覚書」の締結を背景に、協会と中国国際人材交流財団が昨年、DMA デジタル化会計管理プログラムを開始し、中国と英国のデジタル関連人材の誘致と育成のマイルストーンとして、大湾区の金融業界発展のみならず人材育成に力を入れることが期待されている、と李氏は述べました。

香港政府の金融サービス及び財務局副長官である陳浩濂（ジョセフ・チャン）氏によると、会計は市場経済システムのインフラであり、国際的に通用するビジネスの言語であると同時に、近代産業システムの構築と市場の国際化を可能にするプロセスにおいて欠くことのできない要素であるとのこと。同庁は、会計及び財務報告局（Accounting and Financial Reporting Council）、香港公認会計士協会と緊密に連携し、香港の会計士の育成を推進しています。香港の会計士は、中国全体の発展プランにおいて非常に重要な役割を担っており、その中で、大湾区は最良のエントリーポイントとなっています。

過去 3 年間、大湾区は 6 万社以上のハイテク企業を育成し、30 以上のテクノロジー協力支援プロジェクトを立ち上げ、横琴に中医薬学・新薬技術革新センターの設立を推進しました。米国のニューヨーク・ベイエリア、サンフランシスコ・ベイエリア、日本の東京ベイエリアと比較し、大湾区は、近い将来、GRP の面でトップに躍り出ることが予想されると、アーンスト&ヤング華南エリアのマネージングパートナー、黄寅氏は述べました。ただし、より重要なのは、どのように GRP 一位の座を確保しながら質の高い発展を確保するかということです。

黄氏によると、大湾区における金融協力においては、クロスボーダー貿易、投資、資金調達促進のためのデジタル人民元利用の追求、クロスボーダー金融商品関連の情報セキュリティや税制などを改善し双方向資金流動の促進、大湾区の金融市場、金融インフラ施設建設及び金融分野関連の相互接続の推進、大湾区内に

---

おけるクロスボーダー専門サービスのレベルアップ、科技金融イノベーションサービスの強化、大湾区内の金融管理監督に関する協力強化、といった点に今後大きな期待が寄せられています。

**【クロスボーダー水路交通網が広州市まで延伸 琶洲香港マカオフリーターミナル正式稼働】**



5月4日、琶洲香港・マカオフリーターミナルの開港式が広州で行われました。10時35分、澄んだ笛の音とともに、カーボンファイバー製高速客船「海珠湖号」がゆっくりと出港し、初航海成功にて広州市中心部の唯一の水上クロスボーダー港が正式稼働したことを示しました。

広東省港航グループの副総経理、羅健氏は「現在、香港との往復便は1日2便だが、運航状況に応じて徐々に便数を増やしていく」と述べました。琶洲香港・マカオフリーターミナルは、大湾区の交通インフラの相互接続、広東省・香港・マカオ間の交流を促進する上で重要な役割を果たしており、さらに多くのサービスプロジェクトを次々と実行します。

---

## 第一段階：香港発着の2路線開設

琶洲香港・マカオフェリーターミナルは、大湾区の象徴的な直通交通施設の一つであり、広州都心部と香港を結ぶ唯一の旅客フェリーターミナルで、広東省港航グループと広州越秀集団が共同で建設しました。フェリーターミナルは珠江に接する琶洲閱江中路に位置し、中国輸出入商品交易会展覧会場琶洲展館（琶洲国際会展センター）に隣接し、琶洲橋とは600メートルほど離れています。

第一類（国家級）旅客ターミナルとして、琶洲香港・マカオフェリーターミナルは2段階に分けて建設され、第一段階では、琶洲香港・マカオフェリーターミナルと香港中港城と香港空港スカイピア間の2路線が開通されます。海珠湖号と海珠湾号にカーボンファイバー製高速客船2隻が運行、全行程は約2時間で、大湾区の中核都市へのアクセス時間をさらに短縮させることができ、大湾区の近代的総合交通システムの構築の加速をサポートします。

「今後、南沙や虎門まで行って香港行きの船に乗る必要はなくなりました」。2階の待合室では、広州市珠江新城在住の何家林氏が、ロサンゼルス行きの飛行機に乗るため香港空港行きフェリーに乗る前に、荷物を預ける準備をしていました。一本のフェリーに乗るだけで香港空港まで直接行けるため、香港に着いてからの乗り換えの手間が省け、「海空複合交通」が気に入っており、さらに便利になり、広州の家のすぐそばで直接チェックインや荷物の預け入れができるので、近年の大湾区の発展の速さを実感しています！と興奮気味に語りました。

琶洲ターミナルでは、現在10社の国際航空会社が香港空港発便のチェックインと荷物預けの手続きを受け付けており、84社の航空会社が香港空港スカイピアでのチェックインと荷物預けの手続きを受け付けています。クロスボーダーで旅行する旅客はワンストップで広州チェックイン・香港搭乗の海空複合交通サービスを利用することができます。



---

## 水上交通と観光の複合施設を建設

「4月14日のフェリーターミナルの試験運用開始以来、これまでに50便以上が運航され、メーデーのゴールデンウィーク期間中は満席になる便も出てきており、今後は運航状況や市場の需要に応じて便数を増やしていく」と羅氏は述べました。羅氏の紹介によると、現在、2路線で使用されている客船は260の客席があり、一等席60席、普通席200席となっており、今後は「公共交通モード」\*での運行を実現する予定です。

\*公共交通と同様な高密度、短い間隔で運行すること。

琶洲から香港国際空港へフェリーで移動し、飛行機に乗り継ぐ乗客は航空旅客出国税の支払いが免除されます。出国税を支払済の乗客には、スカイピアでのチェックイン時に税還付券が発行され、保安検査後、同日にスカイピアの「出国税還付カウンター」で提示すると、現金で還付を受けられます。

将来的には、琶洲香港・マカオフェリーターミナルは広州都心部より大湾区までの高速水上旅客交通ルートのギャップを埋めるために、琶洲からマカオ、珠海の島嶼部、珠江デルタの一部の港との間の水上交通ルートを追加することも計画されています。大湾区におけるビジネス・貿易交流を加速する、経済・社会統合と相互促進する新しい水路を開拓します。

同時に、広州交易会及び琶洲AIデジタル経済実験エリアに訪れる莫大な旅客数を迎えるため、琶洲香港・マカオフェリーターミナル・プロジェクト第二期が、琶洲国際会展センタービル群において計画されており、多様な運営の促進、クロスボーダー、シティー、島嶼ツアー及び珠江ツアーなど含んだ水上観光交通複合施設の立ち上げ、ヘリコプター、水上飛行機ルートの開設と合わせて、大湾区のランドマークになる新しいクロスボーダーの水上通路と統合的な交通と観光のハブとなる見込みです。

---

## 大湾区に新たなクロスボーダー水路を建設

現在、大湾区では、何百万人もの住民が毎日、都市間、さらには国境を越えて移動する必要があります。大湾区のインフラの相互接続が加速され、川と海を渡る通路が整い、「軌道上の大湾区」の建設が加速し、水上公共交通ルートがますます増え、より立体的で多様な移動手段がシームレスに接続されており、大湾区の「一時間生活圈」が現実のものとなってきています。

また、水上交通の急速な発展は、広東省の船舶関連産業発展を促進していることも特筆に値します。琶洲香港・マカオフェリーターミナル・プロジェクトの第一期で、運航を開始した2つのカーボンファイバー製高速客船は、珠江船務傘下の広東中威複合材料有限公司が建造したものです。同社はこれまでに世界をリードするカーボンファイバー材料の造船技術の導入に成功し、中国での空白を埋めるために、カーボンファイバー複合材料造船の生産拠点を構築し、広東省の水路交通の新しい経験を切り開きました。

### 【深圳と香港が相互補完 大湾区の強みを生かす】



---

4月21日、香港行政長官である李家超（ジョン・リー）氏は、立法會議員や政府高官の代表団を率いて大湾区本土の4都市を4日間の日程で訪問し、香港特別行政区の設立以来、最大規模の公式訪問となりました。

## 両地域の融合を促進 コロナ後の経済回復を実現

香港の中核機関である行政會議（Executive Council）と立法会（Legislative Council）の協力と協調は、極めて重要であると言えます。行政長官が率い、立法會議員が同行する今回の代表団は、行政會議と立法会の相互理解を深め、両者の距離を縮め、両者の交流とコミュニケーションを促進し、お互いの役割と責任をよりよく理解し、政策をより円滑かつ効率的に実施・執行するための協調と協力体制を可能にし、香港の発展と繁栄の推進を推し進めていきます。

今回の訪問の主な目的は、香港と中国本土の融合プロセスを促進することです。コロナ禍は世界の経済と社会に深刻な影響を与えており、コロナ禍からの回復を達成するために、香港と中国本土は引き続き協力を強化し、一体的発展を推進する必要があります。

今回の訪問日程は非常に豊富で、スマート交通、人工知能、ドローン、スマート物流、文化創造産業、情報通信技術、医療工学、環境保護などの分野をカバーしており、代表団の重点分野は香港の発展分野の要であるイノベーション・テクノロジーとなっています。

科学技術の発展は、香港の将来の発展にとって重要な要素であり、香港と中国本土の融合の重要な推進力となると考えられています。代表団は初日、中国本土の大手電気自動車メーカーである比亞迪（BYD）を訪問しました。BYDはエネルギーと電気自動車に特化した有名な企業という印象を持っている人が多いと思われませんが、実際の同社の研究対象分野は多岐にわたっており、材料、情報技術、バッテリー、エンジン、環境保護、都市設計など幅広い分野をカバーしており、中国の科学技術の進歩と持続可能な発展の促進に大きく貢献をしてきました。



---

2 日目には、深圳市南山に位置する、人工知能とドローン技術の研究・応用に取り組むディー・ジェイ・アイ（DJI）を訪問しました。DJI は、世界をリードするドローンブランドとして、ドローン技術の研究開発の最前線に位置しています。創業者の汪滔氏は、香港科技大学の卒業プロジェクトで、遠隔操作ヘリコプターの飛行システムを研究し、その後、DJI を設立しました。卒業プロジェクトの成果を徐々に発展させ、DJI は今では世界的に有名なドローンブランドへと成長しました。DJI 訪問において、代表団の一員である立法會議員黄錦輝氏はドローン技術の可能性とその応用範囲の広さに感銘を受け、ドローン技術及び応用分野における革新的な進歩に衝撃を受けました。

また、代表団は前海協力区の「前海深圳香港青年夢工場」へも訪問しました。ここは、ワンストップで専門的な起業・ビジネスサービスを提供するプラットフォームで、レンタルオフィス賃料の優遇、起業資金、金融支援などのサービスを提供しています。香港と深圳の若い起業家に非常に優れたプラットフォームを提供し、両地の交流と協力を促進します。

### 対外循環を促す 東莞市と共同で空港センターを建設

また、東莞物流園區にある香港空港管理局の「東莞・香港国際空港センター」も視察しました。現代サービス業の「前は店舗、後ろは工場」といった業務形態において物流は不可欠な要素です。物流管理により企業の生産、販売、物流、アフターサービスが円滑に行われ、商品が時間通りに顧客に届くことを確実にします。当国際空港センターの建設は、商品の国際化という国からの需要に応え、国際的な経済循環を促進するとともに、世界有数の航空輸送サービスプロバイダーである香港の利点を生かし、大湾区の香港と広東省の相互利益を実現し、協力を深めていきます。

コロナ禍が 3 年以上続いた中で、香港空港管理局は東莞市政府と提携し、ワンストップで国際物流サービスを提供する当国際空港センターを建設しました。

---

2020年9月にスタートした当プロジェクトは、国境を越えた物流業務を最適化し、競争の激しい市場で競争力を保つための数々の革新的技術を備えています。

ワンストップサービスの提供は、企業の国際物流プロセスにおける時間及びコストを大幅に削減すると同時に、物流の制御性と安全性を向上させ、企業の発展に多くのチャンスと競争優位性をもたらすことができます。また、当共同プロジェクトの立ち上げ、建設の成功は、両地域協力の実用的かつ革新的精神を示すものとなっています。

### 「0から1へ」のイノベーション 「1からNへ」の産業化

化学技術イノベーションと産業化という点で、香港と深圳は相互補完的な関係にあり、良好な協力関係とウィン・ウインの環境を作り上げることができます。香港は深圳の支援により化学技術成果を実際の産業に転換し、「0から1へ」のイノベーションを実現させ、深圳は香港との協力を通じて、科学技術成果をより広いマーケットに広げ、「1からNへ」の産業化を実現することができます。今後、両者の強力な協力関係によって、中国のイノベーション・テクノロジーの発展が共同で促進されると黄氏は信じています。

---

## 【参考資料】

- ・ [大湾区における金融の加速化 デジタルイノベーションが国際的な会計人材の潜在的市場を促進](#)
- ・ [クロスボーダー水路交通網が広州市まで延伸 琶洲香港マカオフェリーターミナル正式稼動](#)
- ・ [深圳と香港が相互補完 大湾区の強みを生かす（経済日報 5月10日）](#)

青葉【WeChat 公式】のフォローをご希望の方は、  
右記の QR コードから登録をよろしくお願いたします。  
(WeChat アプリにて、QR コードをスキャンしてください。)

[大湾区ニュースレター特集ページへのリンク](#)

また「大湾区情報」だけでなく、中国、香港のニュースや最新制度  
情報も WeChat の公式アカウントに掲載しています。



=====

[最新ニュースページ](#)で過去に発行したニュースレター、及び香港・  
中国本土最新ニュースをご覧になれます。

ホームページと共に、SNS でも随時情報を発信してまいります  
ので、是非ともフォロー、いいね！をお願いいたします。



質問等お問合せ先

青葉監査法人・青葉ビジネスコンサルティング・青葉法律事務所  
担当: 新井 茂 <[s.arai@aoba.com.hk](mailto:s.arai@aoba.com.hk)>

=====